

2026（令和8）年 梶山女学園大学水野英雄ゼミ 講話資料

□日 時 2026年6月18日（木）10：50～12：20

□会 場 熊本県玉名市 高谷自宅、名古屋市千種区水野ゼミ室

「熊本の三菱熊本航空機工場保存をめぐる ～熊本市健軍のまちづくりと戦争遺産～」

5/13版

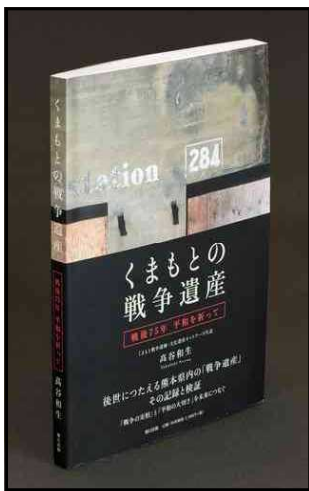
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代 表

戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員 高谷 和生

1 はじめに ～戦後81年の諸相～

(1) 戦後世代としての「私の視点」 ～近現代考古学との出会い～

- 日本考古学が専門、木製武器・武具、弥生末～古墳時代初頭の地域史研究
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員 空襲・戦跡九州ネットワーク 運営委員
- 平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 菊池恵楓園ボランティアガイド 役員
(一社)くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会 元理事 肥後考古学会 元幹事



□高谷拙書『くまもとの戦争遺産』
□「戦後80年展 たまな・くまもとの戦争遺産」展 □連合熊本での講演様子

(2) 私の歴史観、戦争遺跡・遺産への視点は？

- 熊本県内戦争遺産の「調査・研究活動」と「啓発活動」は、「両輪の活動」
- その活動そのものが「未来への継承」である。戦後世代高谷の「平和継承の活動」
- 戦争遺跡は、歴史の遺産であり、忘れてはならない「歴史事実の厳粛なる遺構であり、「モニュメント」である。
- さらに地域が戦争で失った貴重な人命、地域の自然や文化、そして地域が戦災のあと復興し生きてきた歴史を考えるうえからも、戦争遺跡の調査研究・保存活用は重要である。
- 戦争遺跡・遺産の学び・見学での「戦争の加害や被害の両面」からの歴史認識の重要性
- 的確な歴史認識と時代背景や地域特性に関する基礎的な学びの保証
- 「東アジア史の視野」と「地域の戦争史の認識」での両者の位置付け



保存、活用「官民で議論を」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生代表(70)

熊本県内の戦争遺跡の記録や検証、関連資料の掘り起こしなどに取り組む「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(玉名市)は、これまで県内に約200カ所の戦争遺跡・遺構を確認している。

同ネットワークの高谷和生代表(70)は、県内で戦時中に建設された軍施設の特徴を「多くの飛行場が建設されたこと」と指摘する。陸軍7カ所、海軍2カ所、特攻用秘密飛行場5カ所の計14カ所は、九州で福岡、鹿児島、宮崎に次いで4番目に多い。

菊池市の菊池飛行場跡地に代表されるように、飛行場には土地の収用と部隊の展開、米軍による空襲被害、戦後復興の歴史がひも付く。高谷さんは「飛行場は戦争の実相を示す昭和史を凝縮した遺跡。できる限り詳細な調査が必要」と強調する。

同ネットワークは大規模な施設跡を「遺跡」、そのに残る門などを「遺構」と定義する。太平洋戦争末期には、本土決戦に向けた軍事施設が県内に急造された。有明海に侵入してくる敵の迎撃のために、日本軍は天草地区に特攻用モーターボート基地や3間の砲台を設置。入吉海軍航空基地(錦町)は地下施設が増設され、兵たん基地として利用された。一部は遺跡、遺構として今も残る。

県内にはほかにも、陸上自衛隊北熊本駐屯地(熊本市北区)にある熊本陸軍幼年学校時代の大理石製方位盤、臼川中(中央区)の正門として移設された野砲兵第6連隊の營門などがある。

戦争遺跡や遺構は、自然災害や劣化で消失したり、所有者の意向などで取り壊されたりするケースがある。隈庄飛行場(熊本市南區城南町)の油倉庫は2016年の熊本地震で全壊した。福岡県や沖縄県など行政が主体となって調査し、保存に取り組む自治体もある。高谷さんは「戦争遺跡や遺構は公共の遺産として、将来に残さなければならない。どのように保存・活用していくのか、熊本県内でも行政や市民と一緒に議論を深めるべきだ」と提案する。(後藤幸樹)

- 2015年刊行『くまもと戦争遺跡ガイドマップ』で、県内主要戦争遺跡を紹介
- 拙書『くまもとの戦争遺産』2020年熊日出版で、県内戦争遺跡・遺産を詳述。本作は熊日出版文化賞・地方出版文化功労賞他を受賞
- HP上で「くまもとの戦争遺産（戦争遺跡・遺構・遺物等）一覧」の公開・逐次更新
- 熊日新聞での高谷連載・わたしを語る「平和のバトン 未来へ」令和6年6月21日～9月3日・全51回

2 九州の戦争遺跡・戦争遺産

(1) 戦争遺跡とは？ 戦争遺産とは？

- 戦争の痕跡、戦争関連の遺跡、戦闘のあった跡、略して「戦跡」
- 「近代軍政が始まった明治期から太平洋戦争終結後の近代の戦争遺跡」。「近代日本の侵略戦争とその遂行過程で、戦闘や事件の加害・被害・反戦抵抗に関わって国内国外で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構や跡地のこと」
 - ※ 『しらべる戦争遺跡事典』『続 同書』柏書房 2003年
- 戦争遺産は、戦争遺跡・遺物、戦時資料、米軍資料、戦時体験や証言等を含めた「後世に継承する戦争に関わる事物」



□ 熊本県菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」

(2) 戦争遺跡 ～熊本県の状況、全国の状況 等～

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件
2021年10月2日現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- 拙書『くまもとの戦争遺産』内の一覧表には「249件」を精査し記載。くまもと戦跡ネットHP内で、逐次更新
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件
- 『しらべる戦争遺跡事典』『続 同書』柏書房 2003年 絶版
- 2025年7月刊行予定『新・戦争遺跡事典（仮）』大月書店
- 戦争遺跡保存全国ネットワークHP内戦争遺跡 指定・登録文化財の動向（2024年8月時点）旧陸軍関連、旧海軍関連、民間・軍需工場・その他指定登録文化財一覧として整理。逐次更新

(3) 九州の「戦争の歴史」をたどる ※「沖縄」地域を除く

～九州に残された「戦争遺跡七項目」と、さらに「戦争遺産二項目」～

九州エリアは福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島七県で成り立つ。国内最西端で朝鮮半島・中国大陸に近接する地政学的要因から、特徴的な戦争遺跡分布が認められる。明治政府成立から太平洋戦争に至るまで、九州内の特徴は「九項目」にまとめる。

① 西南戦争遺跡

西南戦争は、1877年（明治一〇）年、中・南九州一帯で生じた国内最大・最後の内戦である。鹿児島市内では城山・鶴丸城跡等の史跡指定の西南戦争関連遺跡や敷根火薬製造所跡等が良好に残され、併せて県により高熊山激戦地跡等の調査が行われている。熊本県では薩摩軍・西郷軍と政府軍・官軍の激戦の場となった田原坂をはじめ横平山等では、砲台及び官軍墓地等が良好に残る。平成25年3月27日に、熊本市・玉東町に所在する九遺跡が西南戦争遺跡群として国史跡指定を受ける。熊本城内調査でも銃弾等が出土している。宮崎県内では、長尾山一本松陣地等の和田越周辺の戦跡、鳥川陣地等の耳川沿岸の戦跡調査が県主導で行われている。大分県内では三国峠等を中心として県内台場跡880基の確認も進んでいる。



□ 耳川沿岸の戦跡「鳥川の陣地」
宮崎県日向市

② 陸軍聯隊・師団の設置と海軍佐世保鎮守府

1971（明治四）年4月、新政府は小倉に初となる西海道鎮台本営を設けた。その後、熊本に鎮台本営を、第二分営を鹿児島におき鎮西鎮台とした。徴兵令公布後に熊本鎮台と改め、熊本城に本営を移して小倉に営所、日田に分営を置いた。神風連の乱、西南戦争を経て明治十八年五月鎮台条例改正にともない鎮台条例が廃止され、新たに師団制が発足する。詳細は各論に譲るが、十五年戦争期九州内の各師団・聯隊配備は、久留米に第一二師団で麾下には第一四聯隊・小倉、第二四聯隊・福岡、第四八聯隊・久留米、第四六聯隊・大村が、熊本に設置された第六師団では、麾下に第十三聯隊・熊本、第四七聯隊・大分、第二三聯隊・都城、第四五聯隊・鹿児島が配備されている。敗戦後、各聯隊施設は自衛隊施設等となり、一部の建物も継続使用され現存す

る。熊本城内と市域には師団関連施設、熊本幼年学校施設が残され、久留米市内には軍都を構成してきた軍施設、遙拝塔等のみならず、軍都を形成させた民間建物等も残され街全容を見る。併せて第一次世界大戦期の特徴的な戦争遺跡として**久留米俘虜（ふりよ）収容所**が設けられ諸調査が行われている。

1889（明治二二）年に開庁された**佐世保鎮守府**は、九州を始めとする西日本地域一帯の防衛と大陸進出の根拠地としての海軍軍港施設・行政府である。2016年（平成28年）4月佐世保鎮守府庁・水道施設群・武庫倉庫群等が文化庁より、**日本遺産「日本近代化の躍動を体感できるまち」**に認定されている。なかでも**佐世保無線電信所（針尾送信所）**は、日本海軍が1922（大正一一）年に建設した長波無線電信施設で、国内で大正時建設の塔状構造物としては唯一現存することから国の重要文化財に指定され、その姿は圧巻である。



□佐世保無線電信所「針尾送信所」
国重要文化財 長崎県佐世保市

③明治期要塞と昭和期要塞

日本における要塞構築は、日清戦争、続く日露戦争を経て、明治の末、函館・対馬・佐世保・長崎など要塞配置の検討が行われた。その後一九一四年の第一次世界大戦では航空機、潜水艦など新兵器が登場するなか敵艦侵入阻止の視点で、海上防衛体制の強化が課題となった。1926年「要塞司令部の新設及び廃止」に伴い九州では、豊予、壱岐要塞が新設された。

下関要塞は、関門海峡東側及び西側入口への敵艦侵入防禦の砲台、下関及び企救半島への敵上陸防禦の堡塁を、1887（明治二〇）年から北九州市域に七カ所、下関市域に八カ所構築した。下関市域・山口県西部では、**火の山砲台**、**龍司山堡塁**等が良好に依存する。北九州市域では、**矢筈山堡塁**、**手向山砲台**等も良好である。

佐世保要塞は1900（明治三三）年、佐世保軍港防衛のために設置された。要塞砲台は佐世保湾入口の俵ヶ浦半島、西彼杵半島寄船崎を中心に配置され、1898年から1901年までに主要部が完成した。**佐世保要塞**は廃止後、ほとんど人の手が加えられておらず、ほぼ全ての砲台跡が当時のままに残っている。**高後崎砲台**、**石原岳堡塁**等があり、**丸出山堡塁観測所**は、装甲掩蓋が完全に残り全国的にも貴重である。

昭和期の**対馬要塞**では豊砲台等が、**壱岐要塞跡**では、**的山大島砲台**等が良好に遺存する。昭和期の**下関要塞**は**蓋井島砲台**・**大島砲台**等が良好に遺存している。

奄美大島要塞は、日本海軍の根拠地となる大島海峡を防備するため、1941年以降日本陸軍が構築した沿岸要塞である。大島海峡全域に残存しており、当時の配備状況や構築目的、セツト関係を確認することができる。なかでも**安脚場各砲台関連施設**や**手安弾薬本庫**は、重厚な鉄筋コンクリート構造で構築要領を基に規格的に構築されており、残存度が良好である。2023年3月国史跡に指定された。明治期から昭和期への要塞機能の変容は、近代日本の軍事戦略の変化を追え、東アジア近代史を理解するうえでも重要な遺跡といえる。



□「矢筈山堡塁」掩蔽部
福岡県北九州市門司区

④陸海軍飛行場

沖縄県を除く九州内では、**陸海軍飛行場**は、**陸軍正規27箇所**、**海軍正規27箇所**があり、九州エリアの特徴である大戦末期の**本土決戦時特攻用の陸軍秘匿23箇所**、**海軍秘匿7箇所**の「計84箇所」を数える。また、**有蓋掩体壕**は64基、**無蓋掩体壕**は49基の計113基である。代表的なものとしてRC**有蓋掩体壕**が宇佐に10基、宮崎に7基、築城に3基、出水に3基、また木製**有蓋掩体壕**が**陸軍人吉秘匿飛行場**に5基まとまって残され、一部は指定・登録文化財となっている。



□奄美大島要塞西古見砲台第二観測所
鹿児島県瀬戸内町



□大刀洗北飛行場中型有蓋掩体の公開に向けての整備様子
福岡県甘木市大刀洗町

⑤本土決戦の臨時要塞と防空陣地、特攻基地

大日本帝国終焉期であり、各県ともに戦争遺跡数が最大となる。北九州の**防空陣地**の全六九箇所は、西照空陣地、総牟田高射砲陣地等が遺存し、照空灯台座や夕チ三号電波測定機基礎構造物も残る。豊後水道を挟む豊予要塞の愛媛県**佐多岬砲台**の対岸となる**関崎砲台**等が残り**丹賀砲台**は砲台園地として整備されている。豊後水道・響灘・玄海灘沿岸部には多くの防備衛所が残る。

1944年7月の捷号作戦準備のためは宮崎平地沿岸正面、志布志湾正面、吹上浜沿岸正面が防

衛を強化する沿岸要域と定められた。中でも志布志湾が特に重要視されて湾の入り口に**内之浦臨時要塞**が造られた。砲台跡が四箇所、観測所が三箇所、掩燈所・電灯所などが山中に現存している。

九州での決号のため南九州・奄美・玄海灘を中心に各地に海軍震洋、回天、蛟龍、陸軍マルレなどを配備した特攻基地が出現し、**第一二震洋隊間泊基地等**をはじめ各地に残っている。一九四五年には大分県大神に人間魚雷回天の訓練基地が開隊され格納壕・魚雷著制場等が遺存している。

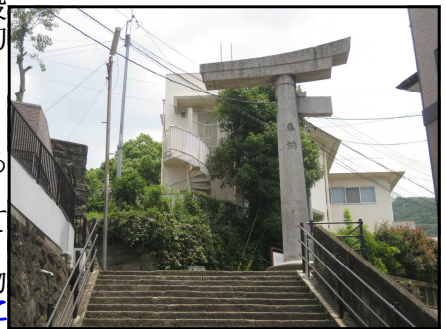
⑥軍工場・軍需工場

当地においても、近代日本の軍拡期に多くの軍工場・軍需工場が成立した。関東大震災以降、軍工場の分散に伴い1933年**小倉造兵廠**を陸軍直営工場として開庁し、工場では、軍刀、軽戦車、小銃・機関砲等の銃器類、各種砲弾、最末期には風船爆弾等も製造した。それに伴い充填する火薬等の生産を鹿児島本線側に**東京第二造兵廠荒尾製造所**を、日豊本線側には**坂ノ市製造所**を造営し、民間の三井染料・日本窒素等製造の火薬等と連環する製造網とする。同様に裾野の広域な航空機生産でも、軍直営の第二〇海軍航空廠から他工場へと生産規模を増大させる。さらに、**九州飛行機株式会社**、**三菱重工業熊本航空機製作所**等の民間軍需工場の工場施設も一部には遺存する。

特に**東京第二陸軍製造所曾根製造所**は、大久野島等で製造されたイペリット等の毒ガスを、迫撃砲弾等に充填・填実する施設である。日本の戦争加害を示す国内有数の遺跡であり、本格的調査と保存に向けた運動が必要である。



□東京第二陸軍製造所曾根製造所
福岡県北九州市南区



□国史跡「長崎原爆遺跡 山王神社二の鳥居」長崎県長崎市

⑦長崎原爆遺跡と空襲遺跡

1945年8月9日長崎市に投下された原子爆弾の被害を伝える遺跡であり**爆心地・旧城山国民学校校舎・浦上天主堂旧鐘楼・旧長崎医科大学門柱・山王神社二の鳥居**が国史跡に指定されている。

さらに長崎市が独自に建物のほか橋梁や植物等の被爆建造物等を示し保存啓発を図っている。また大戦末期の**中小都市空襲に関わる爆弾痕跡や諸慰霊等**が各地に残されている。また、膨大な被爆資料・遺物が長崎原爆資料館で所蔵されている。併せて、戦後米海兵隊撮影のカラー・白黒写真も貴重である。

⑧B29戦略爆撃、米艦載機、極東航空軍による戦術空襲

九州地域への空襲は、以下の事柄に大別され特徴化される。①中国大陸延安周辺の成都四基地からの「**第20爆撃機集団第5航空軍**（第40・444・462・46 群団8）」による八幡、大村、大牟田、熊本等への**B29による爆撃空襲**。②マリアナ諸島各基地からの「**第21爆撃機集団**（第73・313・314・58・315航空団）」による**全国の大都市及び中小都市への爆撃空襲、沖縄作戦支援としてのB29による戦術爆撃**。③米海軍第5艦隊・第58任務部隊（第58. 1～58. 4 任務群）による**全国・九州各都市・戦術目標への艦載機攻撃空襲**。④沖縄本島・周辺諸島からの**米極東航空軍第5航空軍**（第5爆撃機集団、第5戦闘機集団、夜間戦闘機戦隊、写真偵察群団）、**第7航空軍**（第7爆撃機集団、第7戦闘機集団）による**九州各都市・戦術目標へのオリンピック作戦（米軍による九州上陸作戦）での攻撃空襲**



□熊本県田浦捕虜収容所での1944年12月プロパガンダ「クリスマスイベント」の様子

⑨朝鮮人徴用と連合軍俘虜労働等

朝鮮人徴用問題については、熊本県内の三菱重工業熊本航空機製作所地下工場に関わる「指紋押捺制度を考える熊本の会」による調査のみで、熊本県内・九州の全容は把握していない。

また、熊本県内では連合軍俘虜と国内俘虜収容所、福岡俘虜収容所第1分所（熊本健軍）、福岡俘虜収容所第6派遣所（芦北町田ノ浦）の調査を行っている。『**捕虜収容所・民間人抑留所事典 日本国内編**』すいれん舎 2023年

3 健軍（熊本）飛行場と三菱重工業熊本航空機製作所

(1) 健軍（熊本）飛行場

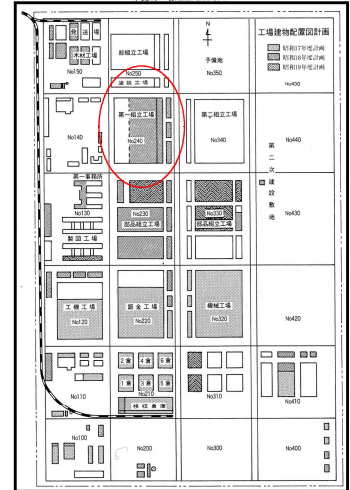
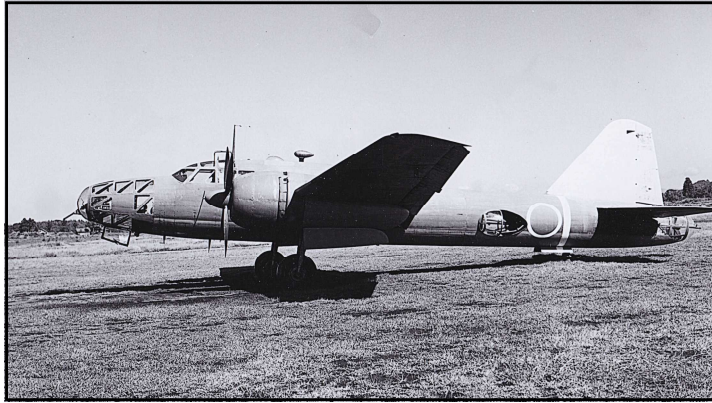
旧熊本飛行場は熊本市東区健軍町・西原町・戸島町・小山町に所在する。健軍飛行場の別称を持ちます。当初は三菱重工業株式会社熊本航空機製作所で生産する重爆撃機「飛龍（キ-67）」試験飛行のための飛行場として設営されました。

昭和19年4月「**飛龍第一号機進空式**」時には飛行場諸施設も南・西側に完成し、同6月大刀洗陸軍飛行学校熊本教育隊が、飛行場東側に管理区画を設け開校した。その後大刀洗飛行学校の廃校に伴い、実戦部隊の配備も行われ、昭和20年4月、重爆隊の第六十戦隊の配置に伴い機能が

更に拡充する。昭和20年5月の義号作戦では、沖縄に向け「義烈空挺隊」の発進が当飛行場から行われた。昭和20年7月、第三十戦闘飛行集団の配当飛行場となり、敗戦時は第六〇戦隊（陸軍重爆隊、その後は百十重爆撃隊と統合し、百七十戦隊に編制替）、第一七独立飛行隊、第五五飛行中隊、第一七四飛行場大隊の配備部隊名が記されている。

滑走路は、現日本赤十字熊本病院前道路として1500×60m（マカダム舗装）を基盤とし、さらに1500×300・1500×200mの2箇所を設定する。周辺誘導路としては、3000m長が20本設置され、周囲には500名収容の宿舎12棟と軍記録に記されている。

飛行場南部隣接の三菱熊本航空機製作所には、義烈空挺隊慰霊碑も陸自施設内に移転されている。第六十戦隊の墜落機慰霊碑が大津町外牧畑、西原村宮山の2箇所建立されている。



□ 健軍飛行場で敗戦を迎えた陸軍四式重爆撃機「飛龍」
□ 熊本航空機製作所配置図

(2) 三菱重工業熊本航空機製作所

三菱重工業熊本航空機製作所は、1942年6月15日名古屋航空機製作所の最新配置図等を用い、熊本市近隣でも敷地的にゆとりのある健軍に起工されたのが三菱重工業熊本航空機製作所です。三菱重工業所内では機体を生産する第九製作所と称され、兵器等製造事業特別助成法による官設民営の工場として建設、略号「カミク」（官設・民営・熊本工場）とも呼称された。

1944年4月29日には、陸軍四式重爆撃機「飛龍」（キ一六七）一号機の進空式が行われた。熊本製作所で敗戦までに46機（一部資料は42機）の飛龍が誕生した。なお、本工場は1945年5月頃より防諜上「報国熊第一〇一工場」と呼称された。昭和20年4月以降は、熊本市内・県央・県北の学校・空き工場への一次疎開、さらに地下工場への二次疎開が行われた。

最盛期は、名古屋航空より180人の基幹工員指導者、昭和19年2月従業員25,000人を目標とし、非徴用者12,525人、女子挺身隊2,012人、学徒隊4,421人の「計18,958人」と記されていた。



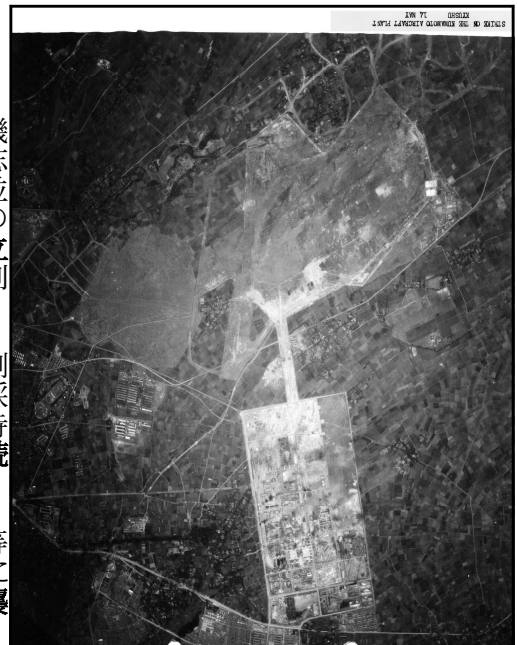
□ 敗戦後の熊本航空機製作所南側全景。長尺建物は工機工場、背景は飯田山

(3) 第一組立工場の概要と歴史的価値

本工場生産された「飛龍」は、当時の日本の大型機としては初めての試みとして胴体部を分割式にした量産志向の機体であった。生産においては作業工程の分割・並行化、作業の近寄性の増大、組立治具の単純化、作業の機械化等が図られた。通称「大東亜戦争決戦機」の組立工場「第一組立工場」では、建屋中央の柱の左右2系列で最大6機が同時に組立られていたとされる。

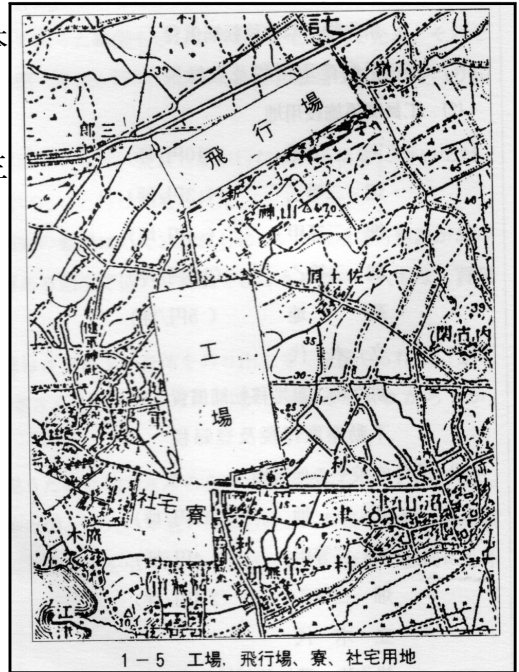
建屋は「桁行き223.2m、梁行き92.5m、全高約9.6m」と想定され、「床面積は19,440㎡」を測り、飛行場出口側に面した北側鉄扉10枚と附帯施設は当時のままであり、採光のための三角の連続屋根24連と連結したトラス鉄骨が特徴的な鉄骨建物である。熊本県内軍需工場で、三角連続屋根鉄骨建物では唯一現存とされる。

1956（昭和31）年7月建物の改修工事がなされ、梁側への出入口等が設置され、現在は、駐屯地車両の整備等が行われる「健軍支処棟」として利用。なお、本工場に関する「三菱側面図類」は残されていないとされ、「空襲時の弾痕等もある」とされるが、未確認である。



三菱重工業熊本航空機製作所の敷地は、約40万坪で、現在跡地には陸上自衛隊西部方面総監部をはじめ、熊本市市民病院、熊本市東区役所、九州運輸局熊本運輸支局、県立第二高校、熊本市立東町中学校等の公共施設・民間施設が立地する。また、健軍商店街地域一帯は、旧三菱社宅施設等である。

- ①本遺跡は熊本県・熊本市の近現代史を理解する上で、欠くことのできない遺跡で、学術上価値の高い遺跡・遺産である。戦争の実相を今に伝える「戦争遺跡・建物」である。
- ②三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場は、「熊本県内で唯一現存する建物」で「全国的にもほとんど残存例を見ない建物」、熊本で航空機生産を行っていたことを、現在に伝える最後の「歴史的建物」である。
- ③熊本市東部地域での土地区画の整備、市電の延伸、水道のインフラ整備、健軍町の街づくりや関連する熊本の航空機産業を伝える「象徴的建物」である。



□1945年5月14日米空母ホーネット艦載機撮影で同地域
□健軍飛行場、三菱熊本航空機製作所工場、社宅・寮



□旧三菱熊本航空機製作所第一組立工場北側全景 □同組立工場内部 天井部と採光状況

4 地域づくりと戦争遺産

熊本県内では、本会をはじめ市民団体5団体が、地域に残された戦争遺跡・遺産を保存・継承し、平和活動及び地域づくりを実施している。ここでは、既存の地域博物館との連携を優先する本会と異なる、一事例のみを紹介する。

(1) 市民団体「菊池飛行場を未来に伝える会」による地域づくり、「菊池飛行場ミュージアム」運営

市民団体「菊池飛行場を未来に伝える会」は、地域に残された陸軍菊池飛行場の戦争遺跡や遺物、戦争証言の調査・保存等を目的に平成20年に設立された。平成28年には、菊池市泗水町に私設「菊池飛行場ミュージアム」として、旧陸軍菊池飛行場に関する貴重な資料や特攻隊の記録、体験者証言等を展示している。この展示を通じて「戦争の実相」と「平和の大切さ」を学ぶ施設である。

また、地元中学生による元航空兵証言の紙芝居製作と上演、会員による絵本作製、地元教育委員会と連携しての地域の小中学校での平和学習を推進している。



□菊池飛行場ミュージアム
□中学生による紙芝居の発表

(2) 地域づくり ～ピースミュージアム、ダークツーリズム

- 地域づくりの基礎・基本資料としての**戦争遺跡・遺物等の歴史調査・検証**
- UDツアーの視点から、**旅のよろこび株式会社との共催『第1～7回 くまもと戦争遺産の旅』**
- 近年、文化財活用論に圧され、全国では単に関心のハードルを下げる手法が多用されるが、**誤用された昭和期の「満洲戦蹟保存運動の反省」を踏まえ、徹底した「戦争と平和の学び」の学習保証と、戦争遺産が「国民の共有財産・ヘリテージ」である文化財認識が重要では**
- 「ピースくまもと設立準備会」から「(一社)くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」へ

(3) 熊本と愛知をつなぐ

- 戦争と平和の資料館「ピースあいち」設立と平和活動
- 「豊川海軍工廠平和公園」に見る、戦跡調査の成果を基盤とした、近現代遺跡の整備
- 市民グループ調査と『愛知県戦争遺跡調査報告書・愛知県戦争遺跡マップ』2026年3月刊行

5 まとめ 「三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場」保存の意味!!

(1) 旧三菱重工業熊本航空機製作所及び同第一組立工場等の**歴史的価値**

健軍地域のまちづくり、熊本の航空機産業の歴史を検証し、記憶を残す**象徴的価値**

(2) 飛行場施設の地下化、軍需施設の学校への疎開・分散、地下工場の造営

- アジア太平洋戦争期での敗戦間際の1945年熊本の状況 「**本土決戦体制の確立**」
- 九州・沖縄の防衛力強化「南西シフト」は、九州地域の新たな**本土決戦「決六号作戦」!**
- 実効性ある国民保護策として、健軍駐屯地周辺の病院等への「**シェルター整備・確保**」優先

(3) 沖縄・先島諸島からの九州各地への12万人の「住民避難（旧疎開）」

- 熊本への沖縄児童「**学童疎開**」、**対馬丸の悲劇**。熊本地震での一次・二次避難と生活確保

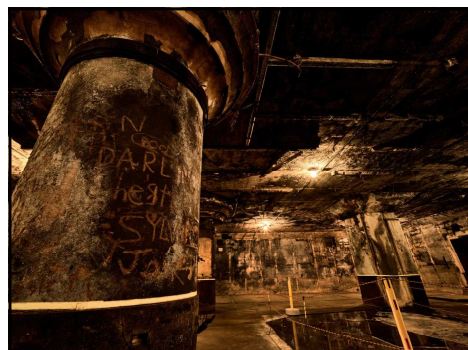
(4) 戦争・空襲・被爆の被害を、国民に強いる「**受忍論**」の限界、誤謬

- 「原爆犠牲者への国家補償」「空襲被害者救済法」の成立! 国民の民意を高める!

(5) ウクライナ戦争から見る「**新しい戦争**」の姿、武力だけに頼らない「**国防の意味**」を市民が考える!



豊川海軍工廠
平和公園



□愛知県「旧豊川海軍工廠・平和公園」 □長崎県「旧佐世保鎮守府地下防空指揮所」



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員 高谷 和生
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL <https://www.kumamoto-senseki.net/>

記憶の継承へ保存進めて

消失する戦争遺跡

太平洋戦争関連の旧軍施設を主とした戦争遺跡について、文化庁の近代遺跡調査に市区町村から報告があった642遺跡のうち約3割が、開発や劣化などのため消失、または大部分が消失し、原形をとどめていないことが明らかになった。来年は戦後80年を迎える。戦争体験者が少なくなる中、遺跡を通じた記憶の継承は重要だ。実態の把握や保存に向けた対策が望まれる。

文化庁の調査は1996年に始まった。国による調査としては唯一とされ、幕末・開国ころから第二次世界大戦終結ころの「軍事に関する遺跡」を対象としている。共同通信が情報公開請求で遺跡と

社説

所在地のリストを入手。43都道府県の216市区町村にアンケートを実施して現状を聞いた。熊本市内からの報告は、熊本市の一田原坂古戦場、騎兵第6連隊兵舎跡、歩兵第三連隊食堂の跡と、天草市の「天草海軍航空隊遺構」。騎兵第6連隊兵舎跡は現存せず、天草海軍航空隊遺構は大半が消失、残る遺跡は現存となっている。

消失した遺跡については市区町村に理由を尋ねたところ、住民や所有者の意向による取壊し、開発や建て替へによる取壊し、経年劣化などが多かった。安住が確保できず解体された例もあった。天草

自治体が独自で保存を進めている例もある。神奈川県川崎市は地城文化財顕彰制度を創設し、旧陸軍登戸研究所を選んだ。北海道別海町は旧陸軍飛行場の施設跡を「歴史文化遺産」として保護している。国が地域の戦争遺跡をよく

知る自治体と連携し、調査や保存に予算措置を講じるなどの施策も考える必要があるだろう。

一方で、各地の市民団体が戦争遺跡の調査や啓発活動に取り組んでいる。熊本市ではくまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークが県内の遺跡の調査や、結果をまとめたリーフレットの作成、見学会などを続けている。戦争関連の資料館設立を目指す取り組みもある。このような民間の活動に、行政が協力していくことも重要ではないか。

20 4.9.25

紙の爆弾「伝單」

～昭和十三年日本初空襲と昭和二十年のボツダム宣言～

日中戦争の最中、昭和十三年（1938）年五月三十日二機の中華民国軍機は、日本領の防空体制の隙をつき、丹波郡・塚原郡入古町などで、「日本本土空襲」となる紙の爆弾「伝單」を投下した!!

昨朝熊本縣下へ投下された「伝單」の複製品

「伝單」は、終戦開戦の昭和二十一年（1945）年七月から八月、熊本・玉名・菊池・松橋・天草の各地に「ボツダム宣言」「無条件降伏」等を知らせる「伝單」50万枚以上が散らされた!!

そして日本国民は、これらの「伝單」を信じた!!

子どもたちの見た戦争

くまもと戦跡ネット戦時資料貸出キット 第1弾セット

戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」は、2016年熊本県全域での戦時資料レスキュー活動から収集された貴重な戦時資料を、九州ろうきん助成事業により収集した戦時資料を、クマモト戦跡ネットがアーカイブ化し、戦時資料を貸し出します。県内各小学校での平和学習、博物館等での平和活動、資料館での展示・学習などに利用できます。今回は第1弾セットで、写真パネルも一部に付きまます。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク <https://kumamoto-senseki.net/>

戦後80年（第7回）くまもと戦争遺産の旅

くまもと戦争遺産の旅 松橋空襲軍人像の県下ツアーを始める旅

今年には戦後80年を迎え、県下から各地に散らばる戦争遺産をめぐりたい。戦争遺産の調査や保存に協力したい。戦争遺産の調査や保存に協力したい。戦争遺産の調査や保存に協力したい。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 平和憲法を活かす熊本県民の会 <http://www.kumamoto-senseki.net/>

熊本日日新聞社

くまもと戦争遺産 ガイドマップ

1945年10月10日撮影。飛行機は17機の爆撃隊の機群。松橋空襲の戦跡。松橋空襲の戦跡。松橋空襲の戦跡。

戦争は不承不覚に突如として、日本を襲った。その瞬間、空は平和な空から、悲惨な戦争空襲の空へと変化した。松橋空襲は、日本領に投下された最初の空襲であり、日本国民の心に深く刻み込まれた。松橋空襲の戦跡は、戦争の残酷さを伝える貴重な遺産であり、平和学習の場として活用されている。松橋空襲の戦跡は、戦争の残酷さを伝える貴重な遺産であり、平和学習の場として活用されている。